

評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所名	グループホームセンチュリー21		
所在地	宇部市山中126-1		
電話番号	0836-62-1021	事業所番号	3570200539
法人名	社会福祉法人 愛世会		

訪問調査日	平成 19 年 11 月 8 日	評価確定日	平成 20 年 9 月 13 日
評価機関の 名称及び所在地	特定非営利活動法人やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク 山口県山口市宮野上163-1-101		

【情報提供票より】

(1) 組織概要

開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員計	9 人
職員数	6 人	常勤 6 人 非常勤 0 人 (常勤換算 6 人)	

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨鉄筋コンクリート		造り
	2 階建ての	2	2 階部分

(3) 利用料等 (介護保険自己負担分を除く)

家 賃	月額	27,000 円	敷 金	無	円
保証金	無	円	償却の有無	有 / 無	
食 費	朝食	150 円	昼食	350 円	
	夕食	400 円	おやつ	100 円	
その他の費用	光熱水費 実費(目安465円/月)				
	日常生活費 日額200円(トイレトペーパー、ペーパータオル、歯磨き・入浴用品一式)				

(4) 利用者の概要 (10 月 1 日現在)

利用者数	9 名	男性 2 名	女性 7 名
	要介護 1	2	要介護 4
	要介護 2	6	要介護 5
	要介護 3	1	要支援 2
年齢	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 93 歳

(5) 協力医療機関

協力医療 機 関 名	医科 阿知須共立病院 歯科
---------------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

(優れている点) 運営者はグループホームについての理解があり、職員の異動は殆んどなく、食事の大切さも認識され、3食ともホームで調理し、梅干、らっきょ作りや月1回の料理教室でおはぎ等、利用者の好みの物を一緒に作るなどの共に支え合う関係づくりをしておられます。外食や温泉に毎月1回出かけるなどの支援もし、日常の会話の中から利用者の話された「言葉」を業務日誌に記入して、生活歴や利用者の意向の把握に努め、サービスの質の向上に取り組まれています。 (特徴的な取組等) 外部評価の結果については、優先順位、改善目標、改善の計画内容などの項目を入れた改善計画シートを作成して、職員全員で話し合い、改善に向けて取り組んでおられます。事故防止対策委員会を設立し、事故やヒヤリはっこの度にリスクマネジメントを活用して、検討し、職員全員で事故防止に取り組んでおられます。職員は救急救命法を受講し、年10回火災、地震、夜間を想定した通報避難訓練の実施するなど、災害対策に取り組まれています。
--

【重点項目への取組状況】

(前回の評価結果に対するその後の取組状況) 改善計画シートを作成し、改善目標や内容を検討、評価して改善に努めておられます。法人の改善会議に月2回参加し、スーパーバイザーに評価結果を説明し、助言を受けておられます。 (今回の自己評価の取組状況) 管理者、計画作成担当者、介護職員全員で、取り組んでおられます。 (運営推進会議の取組状況) 運営推進会議は年4回開催し、市の高齢福祉課職員、民生委員、家族、管理者、法人のケアマネジャーの5名で事業計画、運営報告、利用者の状況報告をし、意見交換をされています。 (家族との連携状況) ホームだよりと金銭出納の写しを毎月送付しています。面会に来られない家族に対してハガキ、手紙、写真も送っています。家族会は年4回で総会及び食事会を実施し、総会終了後には家族と個人面談、状況報告や希望、要望を聞いておられます。 (地域との連携状況) 保育園の発表会や運動会に参加すると共に、法人のクリスマス会に園児を招待して交流を楽しんでいます。また、ホームを来訪する小学生や中学生とゲームや会話も楽しんでいます。老人クラブのボランティアが話し相手やシーツ交換、窓拭きを一緒にしながら交流を深めています。利用者のふるりの文化祭への参加も楽しみのひとつです。

評価結果

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営 1. 理念の共有			
1 (1)	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。	「ゆっくり、一緒に、楽しく」と職場で話し合った理念を共有して、サービスの支援をしている。 地域密着型サービスとしての理念はつくりあげていない。	○ ・地域密着型サービスとしての理念の作成
2 (2)	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。	事務室に理念を掲示し、ミーティングで読み上げ、意識統一を図って、ケアの実施に取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
3 (7)	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。	地域の文化祭、保育園の運動会、発表会に参加し、交流すると共に、法人のクリスマス会に園児を招待して交流している。小学生や中学生の訪問や老人会のボランティアとの交流もしている。	
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
4 (9)	○ 評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	管理者、計画作成担当者、職員で、自己評価に取り組んでいる。外部評価結果を踏まえ、改善計画シートを作成して具体的な改善に取り組んでいる。	
5 (10)	○ 運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	年4回運営推進会議を開催し、メンバーは市の高齢福祉課職員、民生委員、家族、管理者、法人ケアマネジャーの5名で、事業計画、運営報告、利用者の状況報告をし、意見交換している。	○ ・メンバーの拡大 ・外部評価の提示と意見交換
6 (11)	○ 市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	高齢福祉課、介護保険課や校区のふれあいセンターと連携している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践する為の体制			
7 (16)	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	家族会を年4回開催して、総会で情報交換し、その後利用者と共に食事会をしている。総会後には家族と個人面談をし、状況報告、要望、意見を聞いている。ホームだより、金銭出納簿の写しを送付し、面会の少ない家族には、電話や手紙で報告している。	
8 (18)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	家族からは訪問時、家族会で意見、苦情を聞いている。苦情受付窓口、担当者、責任者、第三者委員、外部機関を明示し、苦情処理の手続きを定めている。	
9 (20)	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	職員6名は全て常勤で、日中は3人体制で、外出や行事の際は増員している。急な休みのときは職員間で勤務調整している。	
10 (21)	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、変わる場合は利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	利用者との馴染みの関係を重視し、出来るだけ異動をしない方針である。	
5. 人材の育成と支援			
11 (22)	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	外部研修は勤務扱いで、復命伝達で共有する仕組みである。また、働きながらの介護福祉士の資格取得の研修には、公務として参加できる。	
12 (24)	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	近隣の同業者との交流会や勉強会を行い、質の向上を目指している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
13 (31)	○ 馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
14 (32)	○ 本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
15 (38)	○ 思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
16 (41)	○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。		
17 (42)	○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行なうとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	○	・変化が生じた場合の介護計画の見直し
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
18 (44)	○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
19 (49)	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	家族と話し合い、意向を受けて受診ついて医療機関と連携して適切な医療が受けられるよう支援している。 家族へは受診後に、情報を伝えている。		
20 (53)	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	看取り介護の指針のマニュアルを作成し、入居時に家族や本人に説明、同意書は全家族から得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1) 一人ひとりの尊重				
21 (56)	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。	「言葉づかいと心遣い」の施設内研修を行なっている。個人情報保護についても研修を実施し、全職員は認識している。面会簿は共用空間に、個人記録は事務室のロッカーに納めるなどの取り組みをしている。		
22 (59)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、就寝、食事、入浴時間は一人ひとりのペースに合わせて支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
23 (61)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	配膳、後片付けを一緒にすると共に、食事は職員も同じものを食べている。利用者の好みを大切に、家族などからの差し入れ（新米、野菜、栗等）を使って調理している。		
24 (64)	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しむように支援している。	入浴は毎日14:00～17:00と決めているが、希望に応じての入浴を楽しめるよう支援している。シャワー浴、清拭、足浴など利用者の意向を汲んでの支援もしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
25 (66)	○ <u>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</u> 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴を活かし、編み物、習字、手作り作品など得意分野で一人ひとりの力を発揮して、楽しみや張り合いになるような場面づくりをしている。また、運動や外出は利用者の意思を確認、相談しながら支援している。		
26 (68)	○ <u>日常的な外出支援</u> 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	本人の希望やその日の気分に応じて、散歩や買い物、ドライブなどに出かけている。お寺やお墓参りなど個別対応の支援もしている。		
(4) 安心と安全を支える支援				
27 (74)	○ <u>身体拘束をしないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束(スピーチロックやドラッグロック)を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	法人の「身体拘束廃止委員会」の毎月1回の研修会に参加し、身体及び言葉や薬による拘束を職員は正しく理解している。抑制や拘束はしていない。		
28 (75)	○ <u>鍵をかけないケアの実践</u> 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	帰宅願望や外出察知など、一人ひとりのその日の状態を把握して見守りを徹底し、日中は鍵をかけないでケアに取り組んでいる。		
29 (78)	○ <u>事故防止のための取り組み</u> 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	法人の「事故防止対策委員会」でリスクマネジメントノートにより検討協議を行い、ヒヤリはっと・事故報告書に記載し、事故防止に取り組んでいる。		
30 (79)	○ <u>急変や事故発生時の備え</u> 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	消防署の協力のもと、救急法の勉強会をしているが、応急手当や初期対応の訓練は、定期的には行っていない。	○	・応急手当、初期対応の定期的訓練
31 (81)	○ <u>災害対策</u> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	年10回の夜間を含めた火災、地震の通報避難訓練を実施しており、緊急連絡体制も整備されている。法人の協力体制も出来ている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
32 (84)	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	一人ひとりの既往歴や健康状態を把握しており、用法、副作用などの薬の情報をファイルし、理解している。服薬は手渡しして確認し、必要な情報は医師にフィードバックしている。		
33 (86)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力量に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、一人ひとりの応じた支援をしている。マニュアルに従って義歯や歯ブラシの消毒を行い、自室保管は1名である。1週間に1回訪問歯科があり、口腔チェックを受けている。		
34 (87)	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量の摂取状況を記録し、食事のバランスやカロリーは年2回、法人の管理栄養士のチェックを受けている。		
35 (88)	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)。	マニュアルを作成し、「感染防止対策委員会」で対策を検討している。外出後の手洗い、うがいのほか手を触れる場所(ドアノブ、椅子、手すり、歩行器)の消毒等を実施している。インフルエンザの予防接種も毎年している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
36 (91)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。	中庭の緑にやすらぎを感じられ、食堂には木漏れ日が入ってきて、不快な音もなく、絵や手作り作品が飾られ、季節感のある共用空間である。ソファや椅子が数箇所設置され、利用者同士仲良く談笑していた。		
37 (93)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	箆笥、テーブル、机、衣装ケースを置き、写真、作品など馴染みの物を飾り、落ち着いた居室づくりをしている。		

自己評価書

【ホームの概要】

事業所名	グループホーム センチュリー21
所在地	宇部市大字山中126-1
電話番号	(0836) 62-1021
開設年月日	平成 12 年 4 月 1 日

【実施ユニットの概要】 (10月1日現在)

ユニットの名称	センチュリー21				
ユニットの定員	9 名				
ユニットの 利用者数	9 名		男性 2 名	女性 7 名	
	要介護1	2		要介護4	
	要介護2	6		要介護5	
	要介護3	1		要支援2	
年齢構成	平均 84 歳	最低 73 歳	最高 93 歳		

【自己評価の実施体制】

実施方法	管理者、計画作成担当者、介護職員(その日の勤務者)で勤務の合間をぬって実施した為、数日間の日を要した。
評価確定日	平成 19 年 9 月 日

【サービスの特徴】

1. 自然環境に恵まれた安らぎのある住環境で行き届いた専門的ケアを提供する。
2. 心身機能が低下した場合に併設の特養ホームに受け入れが可能である。
3. 各種レクリエーションや季節の行事を実施している。

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	○ 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている。		
2	○ 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。		
3	○ 運営理念の明示 管理者は、職員に対し、事業所の運営理念を明確に示している。		
4	○ 運営者や管理者の取り組み 運営者や管理者は、それぞれの権限や責任を踏まえて、サービスの質の向上に向け、職員全員と共に熱意をもって取り組んでいる。		
5	○ 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい			
6	○ 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ったりしてもらえるような日常的な付き合いができるよう努めている。	○	来訪者が増えるようデイサービス利用者にもっとアピールしていきたい(デイサービス職員の協力が必要)
7	○ 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。		
8	○ 事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。	○	ボランティアの方と会話の時間を持ち、何か暮らしの中でうまくかわっていきけるかどうか話をしてみる

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
9	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	○	運営推進委員会メンバーの拡大 外出の機会を多くする
10	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービスに活かしている。	○	委員に外部評価の結果を公表し、意見をくみ上げていきたい。 家族への報告。
11	○市町との連携 事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町と共にサービスの質の向上に取り組んでいる。	○	行事や外出する時には声をかけ参加してもらえるような関係づくりをしていきたい
12	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用するよう支援している。		
13	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	○	施設での「課題」として取り上げてもらい話し合っていきたいと思う。
4. 理念を実践するための体制			
14	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約したりする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。		契約や面会の時には話しやすい雰囲気を作ること、こちらの方から問いかけている
15	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。		
16	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている。	○	来訪時状況説明を兼ねて、ケース記録の閲覧を実施する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	○ 情報開示要求への対応 利用者及び家族等からの情報開示の要求に応じている(開示情報の整理、開示の実務等)。	法人で「個人情報に関する基本規則」「個人情報取り扱い規則」を定め情報開示の実務を行うこととしている		
18	○ 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させているとともに、相談や苦情を受け付ける窓口及び職員、第三者委員や外部機関を明示し、苦情処理の手続きを明確に定めている。	苦情解決の体制を整備し、掲示している。家族総会に管理者が出席し、要望、意見等を聴取し、それらを運営に反映するように努めている。		
19	○ 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	グループホーム会議等に管理者が出席し、職員の意見や提案を聞くようにしている。それらを運営に反映させている。予算を併うものは、要望を査定し予算編成するようにしている。		
20	○ 柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、夜間を含め必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている。	主任が勤務表を作成する時点で、職員と話し合い要望に対応できるよう、勤務調整をしている。		
21	○ 職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	運営者は、管理者の意見を聞き、人事異動を行っている。管理者は、主任の意見等を聞き適材適所に人事配置をするように努めている。		
5. 人材の育成と支援				
22	○ 職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	法人全体で施設内研修には、計画的に取り組んでいる。また、施設外研修にも積極的に参加している。介護福祉士等の資格取得には、法人として可能な支援を行っている。		
23	○ 職員配置への取り組み 多様な資質(年代、性別、経験等)をもった職員を配置することにより、多様な利用者の暮らしに対応している。	必要なサービスの提供ができるよう年代、男女等を考慮し、職員配置をしている。		
24	○ 同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。		○	山口県託老所グループホーム連絡会への加入等を検討したい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
25	○ <u>職員のストレス軽減に向けた取り組み</u> 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。	法人として親睦会を設置し、職員の希望による旅行、花見、忘年会等の親睦行事を行っている。また、夏季休暇を3日取得できるようにしている。定期健康診断は、全職員受診している。		
26	○ <u>向上心を持って働き続けるための取り組み</u> 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている。	介護福祉士や介護支援専門員等の資格取得を目指す職員に対し法人として可能な支援を行い資格手当てを支給している。		
27	○ <u>職員の業務に対する適切な評価</u> 運営者は、高い専門性やリスクを要求される管理者や職員の業務に対し、処遇等における適切な評価に努めている。	運営者は、管理者や主任(計画作成担当者)に対し適切な評価と処遇に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
28	○ <u>初期に築く本人との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	まずは、笑顔を心がけている。こちらからの質問は、控えコミュニケーションをとることを大事にし、会話をしながら話を広げていくようにしている。		
29	○ <u>初期に築く家族との信頼関係</u> 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている。	今、不安に思っている事困っている事をきちんと徹底して聞くように努めている。すぐに返答ができることは即答し、出来ないことでもあまり日にちをおかず上司に相談する等、対応に努めている。		
30	○ <u>初期対応の見極めと支援</u> 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	管理者か施設の介護支援専門員が対応し、在宅の可能性や特養、グループホームの入居が必要かどうか等相談者と充分話し合うこととしている。		
31	○ <u>馴染みながらのサービス利用</u> 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、他の入居者を巻き込んでコミュニケーションをとるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
32	○ <u>本人と共に過ごし支えあう関係</u> 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	「本人のペースで物事を進めていく」ことを心がけ職員が前に出ないように努めている。そして「ありがとうございます」「助かりました」等の声をかけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
33	○ <u>本人を共に支えあう家族との関係</u> 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	家族に聞かれた時や来訪時には、現状を報告している。認知症が進行した本人を受け入れにくい家族もおられ、共に支えているとは言えない入居者もいる。		定期的にはがきや手紙と一緒に写真を添えて状況報告しながら、まずは職員からコミュニケーションをとっている
34	○ <u>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</u> これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している。	年3回の親睦を兼ねた食事会を行っている。入居者と家族、家族と職員、職員と入居者と、より良い関係作りに努めている。	○	家族から申し出のあった「昔の写真のパネル作り」を行う。
35	○ <u>馴染みの人や場との関係継続の支援</u> 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族と外出したり、家族が馴染みの方を連れて来られたりしている。また、職員と一緒に馴染みの場所を訪ねたりしている。		
36	○ <u>利用者同士の関係の支援</u> 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	大声で怒鳴り孤立していた入居者に役割を持ってもらうことで怒鳴ることも少なくなり、今では、他の入居者からコーヒーをいれてもらったりして笑顔で会話をしている。		大きな音を出さない。大声で話をしない。状況に応じて前もって声をかけて了解を得ていく。
37	○ <u>関係を断ち切らない取り組み</u> サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	母体施設の特養へ転居した場合、情報の伝達は充分に行っている。		
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
38	○ <u>思いや意向の把握</u> 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	医者からは、転倒防止の為、車椅子での生活をアドバイスされたが、本人と話し合い少しでも歩けるうちは、歩きたいという希望があった為、歩行器を使用するなど現状での生活を継続している		
39	○ <u>これまでの暮らしの把握</u> 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	家族からの具体的な（知りたい）情報をあまりひきだせていない	○	家族と職員とのコミュニケーションの向上 手紙等で近況報告していく（担当者が手書きし、自分の名前を書く）
40	○ <u>暮らしの現状の把握</u> 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	連絡ノートを活用し、情報交換している		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
41 ○ チームで作る利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している。	本人や家族との何気ない会話の中での意見や担当者の意見を取り入れている。 スーパーバイザーの参加	○	アセスメントの充実 家族との話し合いの場を設ける
42 ○ 現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	状態の変化が生じてもすぐの見直しになっていないことがある 又、期間の応じて見直しができないことがある。	○	変化が生じた場合1週間以内位までに見直す 期日前、早めの見直し 家族参加
43 ○ 個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアの実践のみの記録になっていることが多く、気づきや工夫等の記入が少ない	○	施設内研修でも勉強会があったが、改めてGH内でも記録の仕方について話し合う
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
44 ○ 事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	併設の在宅介護支援センター等を活用し、支援をしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
45 ○ 地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	必要に応じ、地元の関係機関等に協力をお願いしている。		
46 ○ 事業所の地域への開放 事業所の機能を、利用者のケアに配慮しつつ地域に開放している（認知症の理解や関わり方についての相談対応・教室の開催、家族・ボランティア等の見学・研修の受け入れ等）。	地域の文化祭に参加してGH独自のチラシを作成して啓発に努めている。また、ボランティアの受け入れをしている。		
47 ○ 他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他の介護支援専門員やサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている。	状況に応じて、施設内のケアマネに相談するようにしている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
48	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議には市の職員が参加している		
49	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	かかりつけ医はGHの代表者でもあり、毎月1回の施設内の看護部会にも参加するなど十分な関係は築いている		
50	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医は神経内科の為、適切な指示や助言を受けられる		
51	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員（母体施設の看護師等）あるいは地域の看護職（かかりつけ医の看護職、保健センターの保険師等）と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。	母体施設の看護師である為気軽に相談している。又、毎日入居者の健康状態の把握にも努めている		
52	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。	家族と話し合い、又、看護師にも相談しながら1日でも早い退院を心がけている（入院した場合、毎日状態の把握に努め家族と話し合っている）		
53	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。	「看取り介護について」の同意書は全家族より得ている。かかりつけ医とは、話し合っているが家族とは繰り返し話し合っていない。家族の意向は一部の家族からは、聞いている。指針のマニュアルは作成している。		
54	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。	入居時または普段の会話の中でも家族に重度化した場合の対応のひとつとして、母体施設の特養への入居が可能なことを説明している。		
55	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	移り住む先が、ほとんど母体施設の特養なので情報の伝達には充分に行っている。ダメージも最小限になるよう特養職員と話し合い努めている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 1. その人らしい暮らしの支援 (1) 一人ひとりの尊重			
56	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない。		
57	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。		
58	○“できる力”を大切にされた家事への支援 家事(調理、配膳、掃除、洗濯、持ち物の整理や補充、日用品や好みの物などの買い物等)は、利用者の“できる力”を大切にしながら支援している。		
59	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
60	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。		
61	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。		
62	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて、日常的に楽しめるよう支援している。		
63	○気持ちのよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
64	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	毎日入浴を実施しているが無理強いはしていない。最近は、拒否がなくなり、反対に毎日の日課として捉えているように感じる。そして、喜んで入浴する方が増えた。		
65	○安眠休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり、眠れるよう支援している。	朝は自分から起きてもらうようにしている（起こさない）。昼も本人のペースや疲れから休んでる場合、本人にまかせているが入居者によっては、時間を見て起こす時もある。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
66	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした活躍できる場面づくり、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	生活歴をいかし、「字を書く」「計算」「つくろい」「掃除」「配膳、下膳」等場面作りには気をつけている。又、運動、外出にも目的と意識をもった支援に繋げている。		
67	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や状態に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小額の小遣いの所持、管理を任せている方や、その他レジでの支払いを任せたり、一緒に支払ったりしている（レジに人が並んでない場合のみ）		
68	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	目的を話し、理解してもらい外出するよう支援している。また、日々の雰囲気や状況から察しての外出にも心がけている。		
69	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	「昔、トンネルがあった所が、どうなったか見てみたい」と言うことでみんなでドライブしながら見に行った。しばらく停車し、当時の話に盛り上がり帰居してからも話は続いていた。		
70	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	他の用件でかかったり、かけたりした場合ならず、本人にとりついてる。本人が書いた手紙やはがきも送ったりしている。		
71	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	必ず飲み物を出してゆっくり過ごせるようにセッティングしている。		
72	○家族の付き添いへの支援 利用者や家族が家族の付き添いを希望したときは、居室への宿泊も含め適切に対応している。	宿泊を希望する家族はおられないが、いつでも応じれるようにしている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
73	○家族が参加しやすい行事の実践 年間の行事計画の中に、家族が参加しやすい行事を取り入れ、家族の参加を呼びかけている。	親睦を兼ねた食事会を年3回実施している（1回の出席家族数は、2家族～5家族）		
(4) 安心と安全を支える支援				
74	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び言葉や薬による拘束（スピーチロックやドラッグロック）を正しく理解しており、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。	施設内で「身体拘束廃止委員会」を立ち上げ月1回話し合っている。身体拘束をしないケアを実践している。		
75	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	日中鍵はしていない。ケアの取り組みとしては、気をそらしたり、所在を把握しておくなどして取り組んでいる。		
76	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	様子を把握する為、事務所ドアはいつでも開けている。夜間も事務所のみ電気は点け、巡回もしている。		
77	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	入居者の目にはいらないようにカーテンや扉のあるBOX等で工夫している。台所洗剤は常に高い位置（冷蔵庫の上）に置くようにしている。包丁を入れるところ、冷蔵庫は夜間のみロックしている。		
78	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	「社会福祉施設のための防災訓練」のビデオを観たり、施設内で「事故防止対策委員会」を立ち上げ、ヒヤリハットや事故報告書を活用して事故防止に取り組んでいる		
79	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	毎年、消防署の協力を得て施設内職員全員、救急法などの勉強会を実施している。		
80	○再発防止への取り組み 緊急事態が発生した場合や、発生の可能性が見られた時には、事故報告書や”ヒヤリハット報告書”等をまとめるとともに、発生防止のための改善策を講じている。	ヒヤリハット報告書を「事故防止対策委員会」で話し合い防止策をマニュアル化している		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
81	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	毎月通報非難訓練を実施している		
82	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	足元が悪く転倒が多かった時（骨折に至らなかった）家族に報告して予防していく事を話した。又、リハビリ病院を利用する場合、経済的な面についても家族と話し合った。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
83	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	日頃より、様子観察を意識し何か変化を感じた時には、まずは職員間で話し合い、看護師、家族に相談している。必要であればすぐに受診している。		
84	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めているとともに、必要な情報は医師や薬剤師にフィードバックしている。	既往歴と現在の健康状態、治療状況をケースを通して把握している。内服中の主な薬を把握して、何かあれば看護師に報告、相談している。		
85	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる。	食事中の水分補給強化として、2杯目のお茶は職員がついでいる。おかずも繊維質の食材を取り入れている。1日2回の体操や軽い散歩にも努めている。		
86	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしているとともに、歯ブラシや義歯などの清掃、保管について支援している。	毎食後、入居者に応じた支援をしている。ハブラシは週1回消毒をしている。		
87	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事や水分の摂取状況を記録している	○	定期的に栄養士、看護師を交えてチェックしていく
88	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）。	施設内に「感染防止対策委員会」を設置している。予防対策のひとつとして、ハイターを薄めた液でドアノブ、椅子、手すり、歩行器等を拭いている。		
89	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	まな板、ふきんは毎日、コップ、ペットボトル（個別にお茶を入れている）は随時ハイター消毒している。食材も在庫を見ながらメニューに取り入れている		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印（取り組んでいきたい項目）	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1) 居心地のよい環境づくり			
90	○ 安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。		植木を置いたり、椅子を設置したり、四季に応じた飾りつけをしたりして工夫している
91	○ 居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮するとともに、生活感や季節感など五感に働きかける様々な刺激を採り入れて、居心地よく・能動的に過ごせるような工夫をしている。		入居者同志のトラブル防止の為、状況に応じた模様替え(TVとソファの位置を変更)したりしてみなさんが居心地よく生活できるよう工夫した
92	○ 共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。		ソファや椅子を数箇所に設置している。ぬいぐるみ等も置き癒しに繋がっている。
93	○ 居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。		転倒防止の為の模様替え(ベット、TV、ポータブルトイレ、出入り口の位置関係)は本人が納得するまでよく話し合い、行った。
94	○ 換気・空調の配慮 気になるにおいや空気よどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。		排泄の臭い又はトイレの臭いは消臭スプレーや芳香剤を使い、トイレ掃除は日に2回行っている。温度調節は入居者の意見を聞いて、温度計を見ながらこまめに調整している
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
95	○ 身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送ることができるように工夫している。		建物内部に手すりをつけるところがない為、足元不安定で必要な入居者には、歩行器を利用してもらっている。状況に応じては車椅子を利用している
96	○ わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。		環境を変えないようにしている
97	○ 建物の外周や空間の活用 建物の外周やベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。		過ごしやすい季節になると庭で食事をしたり、体操や、日向ぼっこしたりして活かしている

項目		取り組みの成果 (該当する箇所を○印で囲むこと)	
V. サービスの成果に関する項目			
98	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	①ほぼ全ての利用者の ③利用者の1／3くらいの	②利用者の2／3くらいの ④ほとんど掴んでいない
99	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある。	①毎日ある ③たまにある	②数日に1回程度ある ④ほとんどない
100	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
101	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
102	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
103	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
104	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
105	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。	①ほぼ全ての家族等と ③家族の1／3くらいと	②家族の2／3くらいと ④ほとんどできていない
106	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。	①ほぼ毎日のように ③たまに	②数日に1回程度 ④ほとんどない
107	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ③あまり増えていない	②少しずつ増えている ④全くいない
108	職員は、生き活きと働けている。	①ほぼ全ての職員が ③職員の1／3くらいが	②職員の2／3くらいが ④ほとんどいない
109	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての利用者が ③利用者の1／3くらいが	②利用者の2／3くらいが ④ほとんどいない
110	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	①ほぼ全ての家族等が ③家族等の1／3くらいが	②家族等の2／3くらいが ④ほとんどできていない